

JGS 宝石勉強会 水晶の世界 一天然と人工、その生き立ち

水晶（石英）は地殻を構成している主要造岩鉱物で、地球上ではきわめてありふれた鉱物と言える。六角柱状の水晶（Rock crystal）は古くから人々の注意をひきつけ、クリスタルの語源となった。その組成（SiO₂）は単純であるが、構造中にはらせん軸を持つため、左右像や旋光性などの性質が現れる。

天然水晶は高温から低温の幅広い環境下で生成しているため、その形、色、インクルージョン、共生鉱物など、実に多彩である。また、水晶は電子デバイスとして重要な結晶であるため、今日では人工的に水晶が生産されている。

今回の勉強会では宝石の基本とも呼べる水晶に注目し、天然水晶と人工水晶を対比しつつ、水晶の特徴、多様な形、地球に水晶が多い理由、人工育成などについて述べる。また、講演後に実物を見ながら、議論する時間を設ける。

記

日時 平成30年10月17日 12:30受付開始 13:00～15:30
会場 オーラムビル2階《会議室》 東京都台東区東上野1-26-2
テーマ 水晶の世界一天然と人工、その生き立ち

講師 川崎雅之博士（理学） 宝石学会（日本）会員 千葉大学卒、
東北大学大学院理学研究科では理学部岩石鉱物鉱床学教室（現・地球惑星物質科学教室）の鉱物学講座に所属し、砂川一郎教授（故人）に師事した。
民間企業で主に人工水晶の育成・評価に従事している。

講義内容（予定）

- 1 結晶成長・・・基礎、ビデオ上映
- 2 水晶の基礎・・・構造と対称性、基本形、左右像、双晶
- 3 天然水晶・・・地球に水晶が多い理由、多様な形、色
- 4 人工水晶・・・圧電性、育成法、形
- 5 水晶の識別・・・赤外線吸収、形、包有物